

## 第2号様式（第3関係）

### 令和元年度第2回豊山町生涯学習推進審議会 議事録

1 開催日時 令和元年12月4日（水）午前10時～午前11時40分

2 開催場所 豊山町役場3階 会議室5

#### 3 出席者

##### (1) 豊山町生涯学習推進審議会委員

会長：飯田義秀

副会長：柴田昌治

委員：前田治、安藤幸子、尾野よし子、加藤武、浅井恵子、渡邊みゆき  
服部恒子、坪井敏行、武田州美子

##### (2) 事務局

教育長：北川昌宏、事務局長兼生涯学習課長：安藤憲司、

教育専門員：古田弘樹、生涯学習係長：栗山直樹

#### 4 議題

##### (1) 豊山町生涯学習のまちづくり基本構想・基本計画（第3期）について

#### 5 会議資料

- ・令和元年度第2回豊山町生涯学習推進審議会会議資料
- ・豊山町生涯学習のまちづくり基本構想・基本計画（第3期）素案

#### 6 議事内容

##### (1) 開会・教育長挨拶

（局長） 定刻となったので、第2回豊山町生涯学習推進審議会を開始する。最初に教育長に挨拶をお願いします。

（教育長） 委員の皆様には、平素より本町の教育行政についてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本日は、豊山町生涯学習のまちづくり基本構想・基本計画の素案についてご議論をいただく予定になっています。前回、豊山町生涯学習のまちづくり基本構想・基本計画の作成の方向性についてご議論いただいたことを受けて、生涯学習課で素案を作成した。本町ではこの間、上位計画にあたる豊山町第5次総合計画を策定中である。その計画との整合性をも配慮して今回の素案を練り上げた。

今度の土曜日、愛知駅伝がモリコロパークで行われる。愛知駅伝については町として地域の一層の活性化、地域を担う人材の育成を生涯スポーツを通じてやってみたいという考え方のもと、この一年間担当者が懸命な努力をしてきた。生涯学習が持つ力を愛知駅伝で具現化したい。時間があれば応援に駆けつけていただきたい。東海テレビが豊山町を追っかけ取材をしているという情報もある。過日中日新聞でも大きく取り上げられた。活性化の一助にと生涯学習課一同思っている。

委員の皆様にはそれぞれの立場から本日も忌憚のないご意見をいただきながら実り多い会議となるよう祈っている。

（局長） 次に、本町では「議事録等の作成に関する指針」により、審議会等の議事録はホームページに掲載することとなっている。議事録は要点筆記で作成したものに会長の署名をいただいた後、掲載することになる。後ほど、会長から議事録署名委員が指名されるので、会長と委員で議事録の内容を確認していただく。

本日の会議は、委員11名全員の出席があり、会議は成立している。議長

については、審議会条例の規定に基づき会長にお願いする。

(会長) 議事録署名委員だが、加藤委員を指名する。議事録の署名は、事務局が本日の議事録を作成後、署名のお願いに伺う。

(2) 議題(1) 豊山町生涯学習のまちづくり基本構想・基本計画(第3期)について

(会長) 議題(1)「豊山町生涯学習のまちづくり基本構想・基本計画(第3期)について」事務局より説明を求める。

(専門員) 資料(『豊山町生涯学習のまちづくり基本構想・基本計画(第3期)』1～26ページ)に基づき説明。

(会長) 確認だが、今日の議論の後の流れについてはどうなっているか。

(専門員) 今日は素案について議論をした後、修正し、1月にパブリックコメントを実施する。2月に第3期の生涯学習推進審議会を開催し、最終稿を議論いただき、町長へ答申、議会へ報告、印刷配布という流れである。

(教育長) 今日は素案ということでアンケートで住民のニーズを把握し、検証をした。課題が明らかになり、このような素案を作った。今回の素案でいろんなご意見をいただきたい。

(会長) 委員の皆さん、何かご質問・ご意見はないか。

(委員) 1ページ、計画策定の趣旨のところだが、社会情勢の変化についてもう少し具体的に書いたらどうか。町の特色・実情に応じた計画という言葉を入れたらどうか。

(教育長) 社会情勢の変化など具体的に言葉は難しいのだが。

(委員) 少子高齢化、防災など生涯学習に向けた教育、環境、介護などは大切な懸案事項である。社会情勢の変化について少し簡単に書いたほうがよいのではないか。

(教育長) 4行目の「社会環境が急激な変化」の中に取り込んだ。本計画は豊山町第5次総合計画の下位に位置付くもので生涯学習の分野に限って作っているものなのでこのような記載になった。委員の言われた点は十分検討したうえで作成しているので、書き足りない部分があれば検討しなければならない。気持ちとしては町の特徴も書かなければいけない。なお、人口構成を見ればわかるが、世間一般で言う少子高齢化にはあたらない。全国的にも珍しい例。そのことも踏まえて、この趣旨のところはもうひとひねりする必要がある。

(委員) 5ページ、人口等の推移の文章をみると、平成27年度との比較となっているが、現在の2期の計画は平成22年度の人口で書かれているはずなので、平成22年度との比較で書く必要があるのではないか。また、高齢者人口の割合は確かに減っているが、人口全体が増えているために、実際の高齢者人口の数は増えている。

(教育長) 第5次総合計画の下位の計画として本計画は作っている。第5次総合計画では将来の人口推計も行っている。その中の一部である生涯学習分野はこうである。将来の人口は6ページの人口構造の状況から推計していただきたい。第5次総合計画のデータを載せると膨大になるので、下位計画ということを強調している。決して高齢者の割合を無視しているわけではなく、この表現にとどめた。基本的なデータは公式なデータを使うということで、国勢調査のデータを使った。あとは、第5次総合計画の中で人口推計は依存している。この資料だけで完結しようとする、少し量が多くなるので、その点は遠慮した。

(委員) 5ページのグラフの表を見ると、高齢者人口は年少人口や生産年齢人口に比べてはるかに増えている。そういうことを記載したらどうか。

(教育長) 承知した。

(委員) 年少人口の割合が高いという点が特色として計画の中に入っているのか。

もう一つは若い人が多いといっても流動的だからそんなに考慮しなくてもよいと感じたが、そのあたりをどの程度考慮したのか。

(教育長) 35ページには家庭教育支援の充実とあるが、これが第5次総合計画に掲げた基本目標の2番目である。家庭教育という言葉自体を前面に出すということ自体が大きな目標であるが、その中でも基本目標の中に乳幼児学級の年間受講者数を挙げてみたり、36ページからは具体的な事業を項目として挙げたりしているので乳幼児の増加に配慮した内容にしている。第5次総合計画では町全体の課題として取り上げている。

(委員) 4ページの計画策定体制の図とその上の文章との乖離について。図での生涯学習推進本部とは何をするのか。

(教育長) 図については矢印の順番を書くとはよかった。生涯学習推進審議会は町の条例や規則で決められた生涯学習に関する最高の決議機関、審議機関である。生涯学習推進本部というのは推進するための本部であり、構成員は町長以下役場の部長で構成されている実務的な役所の中の組織。生涯学習課から推進本部へ「報告」と矢印を描いたのはあくまで報告であり、各部長に対して単なる報告をするというだけで、本部に何か権限があるわけではない。生涯学習課は事務局なので、意識調査をしたりパブリックコメントをしたりして原案を作成している。矢印の順番を書くとはよかった。

(委員) 簡単に言うと、生涯学習推進本部は実動ということか。第1回の資料には生涯学習課と生涯学習推進本部の間には報告と承認があったが、承認をするということではよろしいか。

(教育長) 生涯学習推進本部の設置要綱には、承認という言葉はない。報告したことについて町を挙げて実施していくということで実質的な承認ということ。今日の皆さんの意見・質問は町民のご意見でもある。分かりにくいものを出してもいけないのでできるだけ分かりやすい答申書を目指す。

(委員) 26ページの下から3行目「主体」とは何か。

(教育長) 言葉が少しお役所的かもしれないが、生涯学習を推進するのは行政だけではなく、体育協会・文化協会など様々な団体もある。主体とは生涯学習を推進する団体の総称である。言葉が分かりにくいようであれば「様々な団体のみなさんと」と変えてもよい。

(委員) 団体を主体になったのかなと思った。

(教育長) 主体という意味には「自分たちの活動として、自主的・自立的にやっている」という意味が込められている。住民の皆様のための計画であるので、読みにくい言葉があったら指摘してほしい。

(委員) 7ページからの①②③の項目立てが私にはわかりづらい。

(教育長) 検討する。

(専門員) 資料(『豊山町生涯学習のまちづくり基本構想・基本計画(第3期)』27～46ページ)に基づき説明。

(会長) 28ページの基本目標は第2期のものと書きぶりが違うがこのように変わった経緯は何かあるか。

(専門員) 第2期の基本構想・基本計画を読むと、一つのことが様々な関係しているために重複している記述が多く、分かりにくかった。そもそも本基本構想・基本計画は豊山町第5次総合計画の下位計画であることから、柱立ても総合計画と同じにして、より読みやすくより分かりやすいものにした。

(教育長) 補足をすると、第2期の目標それぞれが分野も分からないし非常に大まかな目標になっている。こういった反省もあるし、第5次総合計画の生涯学習の分野の目標の立て方がこうなっている。特に議論になったのが「芸術・文化」と「スポーツ」は項目立てをして独立させて目標として掲げるべきだとして意

識して項目立てをした。より具体的に分かりやすくということ。先ほど専門員が申し上げた通り、例えば家庭教育支援の充実といってもこれだけで完結するわけではなくて、いろんな分野と密接にかかわっているわけである。これは非常に項目立ての難しいところで、それは生涯学習の特徴でもある。

(委員) 33ページ(2)について、図書室・資料室という言葉が使っているが、これらの施設を生かすためには図書室には司書、資料室には学芸員が必要。是非人員をつけていただきたい。

(教育長) 社会教育センターは複合施設であり、条例上図書室・資料室は社会教育法という公民館の施設として位置づけられている。アリーナは体育館、それを条例でこのような名前を付けている。図書室は残念ながら図書館法という図書館ではなく、郷土資料室も博物館法という博物館ではない。社会教育センターは様々な施設を凝縮してコンパクトにまとめた、まさに複合施設である。公民館に司書や学芸員が必要かということ、建前ではいらないわけである。かといって、そういう専門家がいなくて運営ができるかということそうではないので、できれば司書や学芸員などの専門的な事業ができるのが理想である。理屈を追っていくとそういうことになる。私たちとしてもこれを良しとしなくて、郷土資料室についても町制50年史の編さんにあたって、いろいろと資料を募集させていただいている。これを機に、郷土資料室ももっともっと町民に見てもらえるようにしたい。人についても専門家ではなくても良いからちゃんとした人を付けて、組織的・計画的に郷土資料室も運営したいし、図書室についても、図書館まで格上げしてもらうのは難しいかもしれないが利用者のニーズを捉えて長寿命化計画を策定しているので、新しいニーズに応じた社会教育センターにしていけたらと思う。必ずしも今の社会教育センターの在り方が良いとは思わない。

(委員) 遊戯室の前のテーブルに中学生が必ずいる。あの場所をもっと拡大すると子どもたちの交流の場が増えるのではとふと思った。私はふれあいひろばの陶芸教室を設立当時から関わっている。陶芸教室は材料費は足りているが、他の教室は足りているのか気になる。指導員も少ない。ふれあい広場はとても良いものだからもっと広めて、予算もニーズに合わせた対応をしていただきたい。またふれあい広場の教室数を増やすのであれば、地域にいる人材を発掘して地域に還元できるようにしてほしい。

(係長) ふれあい広場に関しては、材料費に関しては来年度に向けて、今年度各指導者から聞き取りをして必要な金額を予算計上した。指導者については高齢で来年度不安だとの声も聞いている。ご意見をいただければと思っている。

(委員) 社会教育センターは入り口から全体が暗い。どうしてあんなに暗いのか。郷土資料室もいつも暗い。窓を作ることはできないか。

(教育長) 郷土資料室は先週、生涯学習課で掃除をし、整理を始めた。加藤委員のご協力をいただきながら、入り口を整頓し、電気も常時点灯するようにと考えている。

(委員) 資料室の設立にあたっては、本格的な博物館と同じレベルを予定していたと思う。というのも博物館は自然光を入れない。また当時は学芸員もいたので、そういったレベルを目指していたと思う。

(教育長) いずれにしても郷土資料室は見直しをさせてください。社教センターの入り口、自販機のあたり、暗いのでライトもLEDにしたらどうかという話もある。ただ一気の見直しには費用がかかる。またホールの照明や音響などもご意見をいただいている。

(委員) 節電で暗くしているのでは。

(教育長) 東日本大震災で原発の事故があり、エネルギーを節約する必要があったと

き、蛍光灯を何本か外した時期があった。あの延長ではないかと思う。

(委員) 28、29ページだが、このページ以降、安全・安心という言葉が多用されている。安心とは「ハラハラしないで、心配なく」という意味。意味を考えたら安心より快適のほうがよいのではないか。また、基本目標3は「芸術・文化の充実」ではなく、意味を考えたら、「芸術・文化の振興」ではないか。また基本目標4「スポーツの充実」は「生涯スポーツの振興」だと思うが。それから、基本目標1の2「社会教育施設の整備・充実」というのは「生涯学習施設の整備・充実」ではないか。33ページの「生涯学習関連施設の管理・運営体制を強化し」という表現では、時間通りにきちんと終わり、鍵かけ、掃除もピシッとしないといけないというような印象を受ける。本文の「管理・運営」という言葉はふさわしくないのではないか。

(教育長) 28ページについて、国語的に言えば、「芸術・文化の充実」ではなくて、「芸術・文化施策の充実」、スポーツも同じように「スポーツ施策の充実」ならわかる。ただキャッチコピーとしてはこれでもありかと思う。33ページについては社会教育と生涯学習の違いは何かというところから議論を延々とやらなきゃならないところだが、いずれにしても統一をする必要がある。

(委員) この素案の中に「社会教育」「学校教育」「家庭教育」が結びついた循環した、いわゆる生涯学習を表す循環図がないのでわかりにくい。縮刷版にそのような図があるならよいが、この冊子だけならば、空きページにでも循環図を入れるとよい。

(教育長) 生涯学習のイメージ図を示すことは大切かもしれない。検討したい。また、「管理・運営体制を強化し」というのはそのように受け止められるのかということとは反省である。私たちとしてはしっかりと計画的・組織的に運営しようという意味だったが、そのように受け止められかねないので、少し考えたい。また、安全・安心についてだが、安全とは物理的な safety であり、安心とは心の、主観的なもので、心と物の両方が safety でということによって対としてよく使われるが、使いすぎるとそのようなことになるので、一度工夫をする。

(委員) 36ページ(2)だけ他と違って末尾に「事業」がないと思った。

(教育長) 統一する。

(委員) 29ページの基本目標2について、ライフステージに応じた生涯学習の充実という言葉もあるので高齢者、働いている人たちへの学習機会についても触れたらどうか。

(教育長) 31ページに総論的ではあるが書かれている。若い人を取り込む構想が難しい。地域的に働いている方は名古屋に民間の文化講座はあるし、わざわざこちらに帰ってきてから講座に参加するというよりも。体育にしても文化にしても高齢の方が多い。我々も努力しなくてはならないけれども。

(委員) 生涯学習の担い手は町だけではなく民間、企業など様々であるということを図式化したらどうか。

(教育長) 生涯学習の担い手は我々だけでなく、大学、民間企業、NPOなど多岐にわたっている。概念的にまとめてみるのも良いかもしれない。

(委員) 46ページの「2. 計画の周知」について、周知の方法について具体的に書いたほうが良いのではないか。

(係長) ホームページには今まではたどっていかないとたどり着けなかったが、今はトップページの「トピック」から飛んでいけるように改善した。

(委員) 「生きがいタウン」は全戸配布か。

(係長) 印刷部数は3500部。学校、生涯学習関連施設、生涯学習課窓口、町内のスーパー、コンビニエンスストア等で無料配布している。

(委員) 全戸配布と今までのやり方とどちらがコストパフォーマンスがよいか。

- (教育長) 世帯数は6,500程度。年2回発行なので、倍の数を発行することになる。
- (係長) 広報とよやまでも「生きがいタウン」を作成したことは周知した。広報とよやまは全戸配布なので。
- (委員) コストパフォーマンスを考えて配付方法を検討していただきたい。
- (教育長) 広報をすることは大切だと思っている。
- (委員) 生きがいタウンをPDFで町ホームページに載せたらどうか。
- (専門員) 既に載せている。
- (会長) ご意見どうもありがとうございました。せっかくの機会なので、たくさんの方に発言いただきたい。
- (委員) 供用施設の予約に関して新しい人が使いにくい。予約方法を尋ねた際に、窓口の方に、「いつも使っている人が取ると思うから使えないと思うよ」というようなことを言われた。新しい人でも使いやすくなると良い。
- (教育長) 供用施設は稼働率が高い。供用施設だけでなく社教センターでも同じことが言える。新しい人が使いにくいという声があるので、検討する。
- (委員) ふれあいひろばの第2土曜日としているが、行事の関係で他の土曜日になると参加率が下がるので、優先的に第2土曜日を取れるとよい。準備のために前日の夜に取って、荷物が置いてあるだけということがある。できたら上手に使っていただけるようにしてほしい。
- (委員) ホールとかアリーナのリニューアルについての具体的な計画はどのようなものか。アリーナの空調をつけていただくと活動がしやすい。
- (教育長) 社教センターの長寿命化計画は単なる改修ではなく、新しい行政ニーズに応じたものにして再生させようという計画。一気に改築しようとするとお金が膨大にかかるので、できる限り長く大切に使うという考え方。改修にあたっては新しいニーズに応じたものにしていくという考え方。社教センターもそれをねらっており、アリーナについては空調設備、これは防災の点からも必要だろうといわれているが、最初から空調を付ければ、壁から床から空調に応じたものになるが、ないところに空調を入れると効率が悪い。アリーナの空調が遅れているというのはそういった現状がある。ホールについては、建物全体が早く作ったがゆえに、今の時代に合わなくなっている。長寿命化計画の中で、音響効果、照明など考えなければいけない。アリーナについては床も含めて、床もだいぶ傷んでけがのもとになる。学校も社教センターもそれ以外の施設もあるが、町が50年経ってきて一気に改修の時期になっている。優先順位を考えてやっていく必要がある。私は社教センターは優先順位は高いと考えている。
- (委員) ホールの時計が壊れたので館長に修繕を依頼したら修繕費が車1台分以上かかると言われ、長いこと使えなかった。もうちょっと早く修繕できるようにしてほしい。音響はすごく悪い。映画を上映するのに苦労して実施してもらっている。社教センターは予約開始日に予約をしようとしてもすでに予約が入っていることがある。
- (教育長) 使用基準を明確にするとよい。規則では決まっているので運用の問題だと思う。
- (委員) 社教センターのトイレを洋式化してほしい。
- (教育長) トイレの洋式化は既に計画に入っている。
- (委員) 視聴覚室が視聴覚室として使えるようにしてほしい。
- (委員) ふれあい広場の太鼓をやっているが、豊山中での活動を柔軟に適用してほしい。
- (委員) 10年計画ということを考えると、学習した人が新しいリーダーとしていくということがこれからは必要である。学んで終わりではなく、リーダーとなっていくという場を積極的に取り入れる必要がある。20ページの「参加しや

- すい時間帯」を参考に、ターゲットを絞った講座を開設するとよい。
- (教育長) 学んだことを還元したいということは大歓迎なので、周知していきたい。
- (委員) 限られた予算があるので充実させていくというのは難しいこと。優先順位は具体的につけていく必要がある。一番大事にしたいのは25・26ページの課題である。この課題に対して第3章からどう応えていくのかというようになる。お金をかけずに課題を解決できる方法は人材育成である。高齢者の数を問題にするのではなく、どこをターゲットにしていくのかが施策の根幹である。人材育成、人づくりという視点からいくと、参加者に若い人がいたら、その人が次の指導者になるように育てていく。そのようなお金のかからない方法で生涯学習を充実させていくと良い。
- (委員) これからの10年を考えると、防災・環境・子育て様々な分野での横の連携が必要。その連携を少しずつこの計画に入れて具現化していくと良い。
- (教育長) 課題が山積していて、例えば学校でいうと校長だけでは解決できない問題が山積している。生涯学習でも教育委員会だけでは完結するということはほとんどない。横の連携をとっていく必要がある。
- (会長) たくさんご意見をいただきありがとうございました。可能な限りよりよくなるように検討をお願いします。それでは議題(1)「豊山町生涯学習まちづくり基本構想・基本計画(第3期)について」は提案通り承認してよろしいか。
- (委員) 異議なし。
- (会長) それでは議題(1)「豊山町生涯学習まちづくり基本構想・基本計画(第3期)について」は提案通り承認されたということを確認した。次に次第3「その他」について、事務局から何かあるか。
- (専門員) 次回、第3回の会議は2月中旬を予定している。案内を出すので、出席をお願いします。
- (会長) せっかくの機会ですので、委員の皆さん何かありませんか。
- (会長) ないようなので、これで終了する。
- (局長) これをもちまして第2回豊山町生涯学習推進審議会を終了させていただく。

以上